

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091601197		
法人名	医療法人 ひらつか内科循環器内科		
事業所名	グループホーム 時代 (1階・2階)		
所在地	〒839-0861 福岡県久留米市合川町1574番地1	Tel	0942-31-5699
自己評価作成日	令和元年05月01日	評価結果確定日	令和元年06月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームは大通り沿いにあり、市内の中心部辺りに位置している。近くには大型の商業施設やドラッグストア、石橋文化センター、高良川、公園などがあり外出や散歩に適した場所である。
職員は利用者さまのできることを大切に、共に笑顔で日々過ごすことを意識しながら、関係を築いている。主治医とは24時間の連絡体制を築いており、また協力医療機関の歯科医院による口腔指導もお願いし健康管理に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel	093-582-0294
訪問調査日	令和元年06月04日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム正面に総合庁舎、周辺には文化センターや商業施設、公園等がある利便性の良い場所に、地域密着型事業所として3年前に開設した2ユニット定員18名のグループホーム「時代」がある。母体医療法人理事長の月2回の往診と、管理者を含め3名の看護師、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。食事は、配達される食材を使って、職員がアレンジを加えながら手作りの美味しい食事を提供している。また、立地を生かした散歩や買い物等に毎日のように出かけ、玄関周辺の花壇やプランターの水やりも利用者の楽しみである。利用者が先生となる週2回の茶道教室、献立書き、書道、料理、手芸、園芸、運動等、利用者のやりたい事、出来る事を大切に寄り添う温かな支援が、利用者の要介護度の維持に繋がり、家族から大きな感謝と信頼が寄せられている、グループホーム「時代」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに各ユニットで目標を立てている。ユニット目標は振り返りを行い、新たな目標を設定するなどし、理念の実践に向けて取り組んでいる。	介護理念を掲げ、理念に沿って各ユニット毎に目標を立て、理念の共有、実践に繋げている。年度末の会議において1年間の振り返りを行い、目標に達成していなかったら継続している。施設長、管理者との個人面談も、理念について話をする機会となっている。	介護理念と各ユニットの目標を掲示しているが、確認したり振り返る機会が少ないので、毎月の職員会議や申し送り時に唱和をしたり話し合い、理念の共有に向けた積極的な取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物での外出の際は地域の方とあいさつを交わしたり、ボランティアや学生の受け入れ、校区の行事へ参加などで交流を図っている。	民生委員から情報を得て、校区の情報交換会に参加したり、地域の行事に参加する等、地域との交流が少しずつ始まっている。また、ボランティアや歯科衛生士の実習生の受け入れや他グループホームとの情報交換を行っている。	情報を集め、参加できそうな地域の行事に利用者と一緒に出向いたり、幼稚園・保育園児との交流等、少しずつ取り組んでいく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区内の事業所の意見交換会に参加させていただき地域での活動の理解を深めている。校区での介護フェスタに参加させていただいた。学生の実習受け入れ時には認知症についてお話をさせていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回実施し、民生委員、包括支援センター、市役所担当者、県議員、校区の事業所の方などに来ていただき活動報告を行っている。定期的に他事業所との合同会議を実施している。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、入居状況、活動報告、事故報告を行っている。民生委員、県議会議員、介護保険課、地域包括支援センター職員、他グループホーム管理者の参加があり、質問や要望、情報提供を受け、活発な意見交換が行われている。2回に1回は近隣のグループホームと合同運営推進会議を実施している。	運営推進会議に、家族が参加できるような日程調整を含めた工夫が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、必要時には相談を行い、アドバイスを頂きながら協力関係を築いている。	運営推進会議に、久留米市介護保険課や地域包括支援センターの職員が参加し、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受け協力関係を築いている。地域包括支援センターが中心になって開催した「介護予防フェスタ」に参加し、地域の他事業所と共に定期的な開催を目指し、話し合いを進めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を定め、定期的に話し合い、確認を行っている。各フロアは電子錠となっているため自由には出ることができない状況がある。職員間では身体拘束の勉強会の中で具体例について確認を行っている。	外部研修を受講した職員による内部での伝達研修や勉強会の機会を年2回以上設け、身体拘束となる具体的な事例について確認を行っている。また、3ヶ月毎に身体拘束廃止委員会を開催し、話し合いの結果を運営推進会議で報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部・内部での勉強会を行っている。虐待チェックリストを活用し、虐待についての意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時には成年後見制度のパンフレットをお渡ししお話をさせていただいている。制度を利用している利用者さまもおられる。	入居時に、利用者や家族に対して、日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明を行っている。制度を活用している利用者があるので、やり取りの中で理解を深めている。必要時には、関係機関と協力して、利用者の権利や財産が不利益を被らないよう支援に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は入居時に説明を行い、疑問点に関しても説明を行い同意を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの要望や意見、苦情などは施設長、管理者、職員間で話し合い、できるだけ運営に反映できるように努めている。	職員は利用者とのコミュニケーションを取りながら、利用者の意見や要望を聴いている。家族の面会時や敬老会等、行事参加の時、また、電話等で話す機会を設け、意見や要望を聴き取り、出された意見や要望は運営に反映させている。また、毎月の便りと2ヶ月毎の「時代だより」で、利用者の暮らしぶりを家族に伝え好評である。	運営推進会議への家族の参加をお願いしたり、家族会を開催し、家族と職員、家族同士が関係を深める機会を設け、ホームと家族が共に利用者を支える関係作りへの取り組みを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議に参加し、意見や提案があれば施設長と話し合いをもち、反映に努めている。施設長、管理者との面談の機会を持ち、意見交換の場を設けている。	月1回、職員会議をユニット毎に開催し、カンファレンスや研修会も兼ねて、職員の意見や要望を集約し、ホーム運営や業務に反映出来るように取り組んでいる。年1回、施設長、管理者との個人面談を実施し、目標の振り返りや勤務体制の希望、悩み等を聴く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい勤務条件、職場環境の整備に向け取り組んでいる。できるだけ勤務日数や勤務日の希望を汲めるように努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては性別や年齢を理由に排除することではなく、本人の思いや人柄を尊重している。色々な年代の職員がいることでお互い学び合いながら業務に取り組んでいる。	管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担して、職員同士が助け合い補い合える職場環境を目指している。また、職員の募集や人柄や介護に対する考え等を重視し、年齢や性別、資格等の制限はなく、採用後は内部での勉強会、外部研修の受講等、向上心を持って働く事が出来るよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	講師に来ていただき、人権に関する勉強会を実施している。今後、人権教育に関する外部研修への参加を積極的に行っていきたい。	外部から講師を招いて人権についての研修を実施し、職員の人権への意識づけを行っている。利用者の人権を尊重する介護の在り方を職員会議や研修の中で意見交換し、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した介護サービスを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人に応じたホーム内外での研修の機会を持つように努めている。また昨年より個人目標を設定している。それぞれが目標に向けて取り組み、成長できる機会としたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	校区の事業所の運営推進会議に参加させて頂いたり、他事業所から来ていただいて勉強会を行うなどの機会を持た。こちらからの訪問も予定している。また他事業所からの見学にも随時対応している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にお会いさせて頂き話を伺ったり、ホームへ来ていただいて雰囲気を感じて頂いたりしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や意向の把握に努めている。安心してサービスの導入ができるよう疑問点に関してもその都度お話させていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話を伺って他のサービスなど必要な場合はご家族に提案させて頂いたり柔軟に対応するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒に生活を送っているという意識を持ち、一つ一つの場面で利用者様のできる事を把握し、一緒に行うように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から面会時やお手紙などでご様子をお伝えしたり、必要時にはご家族にも協力をお願いし、ともに支えていく関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方の来訪があったり、なじみの美容室へ出かけられる方もおられる。ご家族の協力も得ながら関係が途切れないように努めている。	近隣の地域からの入居が多いので、友人、知人の面会が多く、長年の友人と一緒に外出に出かける等、親交を深めている。家族の協力を得て、馴染みの美容室へ出かけた後、よく訪れていた場所への外出や外泊(自宅)等、これまで築いてきた関係が、ホーム入居で途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、活動や日々の生活の中でできる事を協力して行ったりと、支え合えるような関係作りに努めている。協力のもと利用者さま同士で美容室へ行かれる方もおられる。フロア全体でハンドベル演奏の練習に取り組んだり、工作作りに取り組んだりと一緒にできることに取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後でもできることがあれば支援を継続していけたらと考えている。退居後の相談にもできる限り対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションに努め、受け持ちの職員を中心に利用者様の思いや意向の把握に努めている。必要時は職員間、ご家族とも話し合いの場を持つなどし、共有に努めている。	職員は、利用者信頼関係を築きながら利用者の思いや意向を聞き取り記録し、情報を職員間で共有し、実現に向けて取り組んでいる。「お茶を教えたい」という利用者の言葉から、週2日、職員がお茶の作法を学ぶ機会を設け、利用者の生きる力に繋げている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から聞き取り、これまでのサービス利用など状況を確認している。また日ごろの会話の中からも生活歴や習慣、趣味などのお話を伺い、共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りのなかで利用者様の状態を共有している。生活の中でできる事を一緒に行いながら、利用者さまの有する力を把握するよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの意見や要望を確認し、6か月に1回は話し合いの場を持ち、受け持ちの職員を中心に現状の確認と必要なサービスの確認を行っている。	利用者や家族の意見や要望、心配な事等を聞き取り、カンファレンスの中で検討し、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、毎月モニタリングを実施し、利用者の状態に変化があれば、家族や主治医と話し合い、利用者の現状に合わせた介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記入し、情報を共有している。気づきや工夫は日ごろから受け持ちの職員を中心に職員間で話し、実践に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出や外泊、ご本人に買い物など柔軟に対応できるようにしている。衛生士による口腔ケアやマッサージ、理美容など希望者の方に利用して頂いている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	校区の事業所の集まりや行事などに参加させていただき、地域資源への理解を深めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	理事長が主治医であるため2週間に1回の往診時に情報共有を行い連携を図っている。また利用者の状態に応じてご家族と相談し、以前からのかかりつけ医に継続して医療をうけている方もおられる。	母体医療法人理事長が月2回の往診を行い、ホームの看護師、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。入居前からの馴染みのかかりつけ医受診は家族対応でお願いし、書面での情報提供や必要時には管理者が同行し支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、状態に変化があれば報告、相談を行っている。必要時には受診を行い、主治医や病院との連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に訪問し、病院関係者やご家族から情報収集を行っている。ご本人の状況やご家族の意向を把握し早期に退院できるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には見取りに関する指針をご家族へお話しさせて頂いている。状態に変化がある場合は主治医、ご家族とお話をする機会を持ち、意向の把握に努めている。	重度化や終末期の方針については、指針を基に、契約時に利用者や家族に説明している。これまで看取りはまだ行ってないが、看取りの研修を実施し職員のスキルアップを図り、利用者が安心して終末期を過ごす環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルに沿って対応するように努めている。事故発生時の状況やヒヤリハットは全員で共有し事故防止に努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと利用者さまと一緒に避難訓練を実施している。年2回の避難訓練を行っているが、今後は水害想定訓練を行っていきたい。	年2回、避難訓練を実施し、消防署の参加を得て指導を受けている。住居スペースが1階と2階にあるため、一時避難場所に利用者を誘導し、利用者全員が安全に避難出来る体制を目指している。また、災害時に備えて、飲料水、非常食の備蓄を行っている。現在、水害時に於ける避難計画を作成中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さまへの言葉かけや対応の方法について職員間で話をする機会を持ち、確認をしている。利用者さまに応じた言葉かけを行い安心して生活して頂けるように努めている。	利用者のプライバシーを守る介護サービスについて、職員会議や内部研修の中で話し合い、利用者一人ひとりの生活習慣や個性に配慮した言葉かけや対応に努めている。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても管理者が常に説明し、情報が漏洩しないように努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面や会話の中で、思いを把握したり利用者さまが自己決定できるような言葉かけを行うように努めている。思いを伝えやすいような関係づくりに努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活の流れはあるものの、その時の利用者さまの意向や状態を確認しながら声かけ、支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的にホームへ散髪に来ていただいている。またいきつけの美容室へ出かけられることもある。ご自分で着たい服を選ばれたり、化粧ができるように声かけを行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理やつぎ分け、食器洗いや台拭き、メニュー書きなど利用者さまに応じて声かけを行い、一緒に取り組んでいる。定期的に利用者さまとおやつをつくる機会を設けている。	配達される食材を使って、職員がアレンジし美味しい食事に仕上げ提供している。利用者の力に合わせ、調理やつぎ分け、食器洗い等を手伝ってもらっている。利用者と一緒におやつ作りに取り組んだり、家族や友人と外食を楽しむ等、食べる事を楽めるよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を把握し、必要に応じて補助食品を利用したりしている。衛生士とも連携を図り、嚥下状態に応じて食事形態を変えたり、とろみを使用したりしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週に1度、衛生士による口腔指導を受けており、指導の下継続した口腔ケアを行っている。利用者ご自身で磨かれた後の仕上げ磨きを行っている。必要時は歯科医院での治療を受けたりと異常の早期発見に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけ個人個人の排泄のパターンを確認している。できるだけトイレでの排泄ができるように、利用者様に応じて声かけ誘導を行っている。オムツの使用も段階的に外していけるように検討、支援を行っている。	重度化しても、トイレで排泄することを基本とし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して、タイミング良く声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。利用者の状況を見ながら、「リハパンでなくてもいいんじゃないか」と提案して検討し、布パンツとパットに変更する等、自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したり、牛乳やヨーグルトなどの乳製品を提供したりしている。また運動を働きかけ運動不足解消に努めている。状態に応じて主治医に相談を行い排便コントロールを図っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行い、午前中午後と実施している。利用者様の状態に応じて支援を行っている。一人一人がゆっくりと入っていただけるように心掛けています。	利用者の希望や健康状態に配慮しながら、週3回は入浴できるよう支援している。ゆっくりと入浴を楽しめるよう、職員が1対1で利用者に向き合い、会話しながら寄り添っている。同性介助希望の利用者には、出来るだけ希望を優先し、利用者の羞恥心やプライドが損なわれないように取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間は特に定めておらず、寝る時間や起床の時間は利用者様の状態を確認しながら支援を行っている。状態に応じて日中も休息時間を取っていただいたりしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服用している分の薬情はファイルし、常に確認できるようにしている。お薬の変更時も受診ノートを活用し全員で共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味やできることを活かした関わりに努めている。塗り絵や絵画、手工芸、料理、運動、散歩、園芸、お花の水やり、お茶作法など利用者さまに応じての支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から天気の良い日は散歩に出かけたり、一緒に食材の買い物に出かけたりし、戸外に出ることを心掛けている。ご家族と外出される機会もある。行事での外出の支援も行っている。	文化センターに季節の花を観に行くような外出レク以外にも、利便性の良い立地を生かして、近所のドラッグストアやスーパーに食材の買い物に出かけたり、近隣の散歩に出かける等、出来るだけ戸外に出かける機会を設けている。また、家族の協力を得て個人的支援にも取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはホームでお預かりし、外出時や必要時にお渡しするようにしている。ご家族と話し合いのもとご本人がいくらかを所持される場合もあり、職員が把握するようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様希望時には電話をかけていただいている。ご家族や友人から電話があった場合も取り次いでいる。携帯電話を持たれている利用者さまもいらっしゃる。年賀状のやり取りをされている方もいらっしゃる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や定期的な換気を行い、フロアにはソファを配置し利用者さまが安心してくつろげるよう工夫している。利用者さまに確認を行いながら空調を調整している。飾り付けで季節を感じていただけるように工夫している。	玄関周りには季節の花を植え、屋内の床や壁等は落ち着いた色調で統一されている。掃除が行き届き、清潔感のある広々としたリビングにはゆったりとしたソファを置いて、利用者一人ひとりが自分の居場所を確保し、居心地良く過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者さまそれぞれ思い思いの場所で過ごされており、くつろぎながら会話を持たれたりとゆっくりと過ごす場所になっている。フロアの整理整頓を行い、過ごしやすい居場所を心掛けている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の協力のもと使い慣れた筆筒を配置されたり、ご本人の好みのものや写真を飾ったりと心地よく過ごせるように心掛けている。コップや食器類も使い慣れたものを持ってきていただいている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた馴染みの家具や寝具、身の回りの物や位牌、家族の写真等、大切な物を家族の協力で持ち込んで貰い、自分の部屋として利用者が安心して居心地良く過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの表示を工夫したり、1日のスケジュールを貼ったり、食事メニューや体操など利用者さまにわかりやすく表示をしている。		